



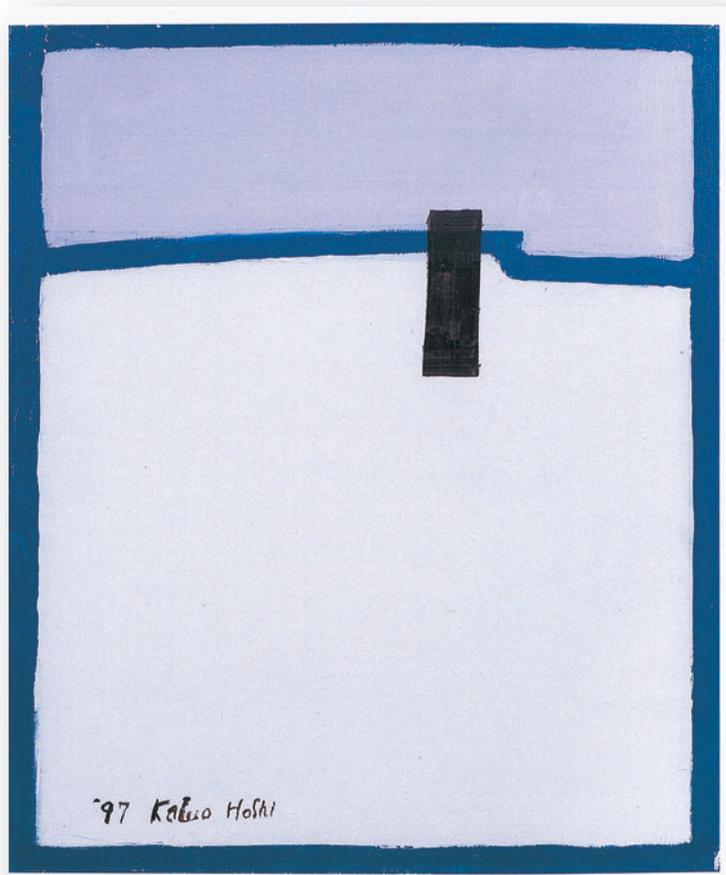
財団法人 星総合病院

懸虹

(題字は名誉理事長直筆)

新年のご挨拶
保健・医療・福祉の連携協力を密に
住みやすい地域社会の実現を目指して

- 冬季の感染症対策について
- 子育てで大切にしたいこと①
- どこでもメディアカルセミナーのご案内
- 施設ニュース



冬 (F20、1997)
名誉理事長 星 一雄

醫 霊

平成十年四月、当財団に星ヶ丘訪問看護ステーションが開設され、早いもので今春、十四年目を迎えます。平成十一年の介護保険導入以後、介護保険・医療保険法の改定等幾多の荒波を乗り越えつつ、多くの人の支えと協力があって今のステーションがあると深く感謝しております。次世代に自信を持つてつなげられるように日々在宅療養を必要とする方々(成人・老人精神疾患も含め)に訪問看護・訪問リハビリを提供し、利用者様が「自分らしい生活」を実現できるような支援を心がけ、他職種との連携を円滑に図っていきたく思います。

日本の現状は要介護(支援)認定者四五〇万人のうち訪問利用者はわずかに二十八万人と、潜在的なニーズの高さに比べると利用者は少なく、訪問看護ステーションが約五千ヶ所、訪問看護師は約二万七千人にとどまっているようです。必要な人に、必要な時、必要な看護、リハビリを提供できたら：と切に思います。

在宅の看取りも大きなテーマです。ご本人やご家族の価値観を理解し共感した態度で求められる情報を必要な時期に提供していくことで、家族の力をも充分に発揮させることができます。ここにも他職種、スタッフ間の連携があつてこそ家族を支えていくことができます。チーム医療の充実に向け更に努力していきたいと思えます。

星ヶ丘訪問看護ステーション所長
菅野 育子

新年のご挨拶

保健・医療・福祉の連携協力を密に住みやすい



財団法人星総合病院 名誉理事長 星 一雄

新年あけましておめでとうございます。

昨年7月に郡山市が策定した向河原地区計画が決定し、今年はいよいよ星総合病院の新病院建設が着工します。これも偏に地域の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

新病院の実現は、我々の長年の悲願であります。期待や夢は大きく膨らむばかりですが、新病院着工の先を見据え、職員一人ひとりが確固たる決意を持って、日々研鑽に励んでほしいと思います。

地域における当法人の役割を再確認するとともに、新病院開院に向けて、一步一步着実な歩みを進めて参ります。

引き続き、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

当法人の理念は、「醫靈」である。これは辞書には載っていない。創始者星一郎が、私達も最大限に発揮したい。それが医道を進む者としての覚悟である。医療医学は科学であるが、その対象は情と心を持つ人間である。このことを常に念頭におき、科学と人間の使命を兼ねることこそが私の理想である。医の原点を見据えながら「醫靈」という理念の具現化を図っていききたい。

財団法人星総合病院 理事長 星 北斗



新年あけましておめでとうございます。

今年は、いよいよ星総合病院移転新築工事を着工します。5万を越える署名に込められた期待を受け止め、その重責を再認識するとともに、応援して下さい地域の皆様に対し、誠心誠意を持って取り組んでいきたいと思ひます。

医療人として、疾病の回復に向けプロフェッショナルな仕事を提供することはもちろんですが、社会とのつながりにも重きを置き、社会活動・社会貢献に積極的に参加していきたいと思ひます。

地域の声に耳を傾け地域の皆さんと共に成長していける、そんな病院を目指して、職員一同取り組んで参りたいと思ひます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

Hoshi General

今年はいよいよ病院の移転新築です。

新病院建設に向けての皆様のご協力をいただき動力となりました。期待皆様の思いに応えられる使命を自覚し、新たな一歩を踏み出します。

「醫靈」の理念が描く、療の姿に真摯に向き療の提供に向け、致す所存でございます。

Network &

財団法人星総合病院 副理事長 星 二郎



明けましておめでとうございます。

昨年は、星総合病院の病院機能評価認定の更新時期でしたが、職員が協力して厳しい審査を乗り切ることができました。今年、町立三春病院が初の受審を、そして来年には星ヶ丘病院の認定更新が控えております。職員が一致団結して取り組んでほしいと思ひます。

今年はいよいよ星総合病院移転新築工事が着工します。当法人が思い描く医療の実現に向け、大きな期待が膨らみますが、新病院実現を支援する5万余の署名に込められた皆様の思いを受け止め、職員一同精一杯取り組んでいく所存でございます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

財団法人星総合病院 総長院長 丸山 幸夫



新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのことと存じます。ここ数年は世界的にも政治、経済を含め社会が何となく落ち着かない状況に置かれているように思ひます。今年はいよいよ年ですので大きく飛躍する年にして頂きたいと思ひます。

昨年は病院機能評価を受審し皆さんで多くのことを考え、学び、地域医療の実践にあたっての基本的な問題を確認し、得るところ大でした。

病院にとって今年はいよいよ節目の年となります。平成13年に本院新築用の土地が取得され建設が待たれていたわけですが、皆様のご努力と市民の方々のご支援のお蔭でこの3月に着工の運びとなりました。ここまでやや長かったことがいろいろの面で良かった点もありますが、平成25年春のオープンが待たれます。斯くして、進歩する医療を展開するにふさわしいハード面の充実が見込まれる今、これまで以上に病院の理念「醫靈」をしっかりと心に刻みつつ自己研鑽に励み、安心・安全な医療の推進に職員一丸となって努力していきましょう。

今年もご支援、ご協力をよろしく御願ひ申し上げます。

地域社会の実現を目指して

理念



星総合病院 病院長 木島 幹博



新年あけましておめでとうございます。昨年は、新病院の建設が決定し、今年の3月にはいよいよ着工の運びとなりました。また日本医療機能評価機構にも良い評価をいただき関係者の皆様方のご努力には心より御礼を申し上げます。こうした大きなイベントを成功させるには多くの関係者の努力や協力が必要な訳ですが、私は幸いにもそれを目の当たりにみることが出来、さらにそのことが職員同士の絆を深めているという何とすばらしい良循環を形成していることがわかりました。大きな仕事を成し遂げた後の充実感と心の絆、これこそが今我々に最も必要なものだと感じております。時代は、確実に変わっていきます。医療制度もどこへ向かうのか混沌としております。しかし、今時代が求めているのは、まさにこのコラボレーションです。今年は、職域を越えてコラボレーションをさらに発展させ、新病院に向かっていきたいものです。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

星ヶ丘病院 病院長 沼田 吉彦



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

星総合病院の新築移転計画が具現化し、いよいよ着工を迎えることとなります。新病院においては、当院の精神科の機能の多くが充実し、実践されていくこととなります。身体診療科の患者が抱える精神的な問題に対しては、リエゾン精神医学の分野が重要視されております。特に、

緩和ケアやターミナルケア、術前・術後等の患者に対して、専門性の高い精神科医療とチーム医療により、質の高い医療を提供していきたいと思っております。昨年度は、「敷地内禁煙」の実施による患者教育、職員教育、医療安全体制の確立、あるいは、児童外来、睡眠障害等の専門医療にも力を入れてきました。また、精神疾患患者の高齢化、認知症疾患、うつ病への対応、そして、健康な方に対する関わりも、大切な課題となっております。今年も、医療スタッフがお互いに尊重し合い、より一層の努力をして参りたいと思っております。今年も皆様のご協力をお願いいたします。

三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、専門病院と地域のゲートキーパーとして、また、医療と介護の橋渡し役として回復期リハビリを中心とした病院診療の充実を図ってまいりました。さらに、訪問診療や訪問リハビリを整備して高齢化する地域医療の課題にむけて取り組んできました。おかげさまで患者さんより感謝や励ましのお声を少しずつですが頂けるようになりました。これもひとえに皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

本年も地域に信頼される病院をめざし、新年を節目にさらに努力を重ねてまいりたいと存じますが、常に足もとを見失わないように開院時の原点に立ち返り、心を引き締めていく心組みでございませう。今後とも、今までに変わらぬご指導とご鞭撻を宜しくお願い致します。

介護老人保健施設オゾン 施設長 森 慶秋



明けましておめでとうございます。一昨年、昨年と私の体のことでのお礼を申し上げましたが今年もその続きとなりました。検診で大腸内視鏡の指示と難聴の指摘で補聴器を付けるため耳鼻科の補聴器外来のお世話になりました。その間足腰が痛みだし整形外科で変形性膝関節炎と腰椎椎間に狭窄を指摘されました。これで総合病院の各科でお世話になることになりました。もちろん、仕事上も各科に診療情報提供書を書いて日々お世話になっています。病診連携、さらには病-施設連携と正に総合的、有機的なつながりです。新病院建設のこの年を象徴しているようです。お世話になります。

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星光 一郎



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年で、愛星福祉会も設立24年目を迎えることとなります。高齢者福祉主体の法人としては、県内でも古い方になり、年も重ねましたので、キャリアにふさわしい良質なサービスの提供に努めて参りたいと思っております。

介護保険制度も来春の医療報酬との同時改定に向けて、厳しいせめぎ合いが行われることでしょうか。一方、障害分野における障害者総合福祉法（仮称・案）の議論においても医療と福祉の連携協力は必須のものとなり、更に補完的総合的にその両者の必要性が高まるものと考えられます。

財団法人と社会福祉法人が共に努力し、素敵な地域社会ができたらいと思っております。そして、病院移転がその転換期になることを大いに期待しています。「患者」から「生活者」への一元化が図られるべき時代の到来だと考えています。

Hospital

Hospitality

いよいよ星総合
工事が着工する年

の署名活動では、多くの
き、実現に向けて大きな原
を寄せてくださる地域の
よう、職員一人ひとりが自
幕開けに向けて全力で取

私たちの目指すべき医
合い、心が通い合う医
より一層の努力を
致します。



冬季の感染症対策について

財団法人 星総合病院 感染対策室
感染管理認定看護師 加藤 和枝

新年明けましておめでとうございます。短い冬休みも終わり、会社や学校生活がスタートし、集団生活を送ることで周囲では感染症に罹患している人が増えているのではないのでしょうか？

「感染症」という言葉を聞いてどんな病気なのかすぐにわかる方はいらっしゃるのでしょうか。「伝染病」だとどうでしょう。“うつる”“こわい”とすぐにイメージされる言葉かと思います。

1999年4月に感染症新法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）が施行され、「伝染病」という言葉は、「感染症」におきかえられました。インフルエンザ、感染性胃腸炎、O157やHIV/AIDS、B型肝炎・C型肝炎、結核、身近なところでは流行性感冒（かぜ症候群）も感染症です。ちなみに感染とは、病原体の体内への侵入を言います。病原体とは、疾患を引き起こす可能性のある微生物です。今でも人から人へと伝染して行く感染症は、伝染病と呼ばれます。

感染症はその原因となる病原体であるウイルスや細菌にさらされると必ずかかるのかというとそうではありません。感染の成立には大きく3つの要因があります。

- ①感受性宿主（人間）
- ②病原体（いわゆるバイキン）
- ③感染経路（うつりかた）

以上の3つです。

感染症は、病気の原因となる病原体（微生物）の侵入を防ぐことで予防できます。侵入を防ぐ方法としては、病原体を死滅させる（感染源の排除）、病原体との接触を避ける（感染経路の遮断）、宿主抵抗力の向上（体の免疫力を上げる）事です。

具体策としての毎日できる感染予防法は

- ① 手洗い（石けんを泡立ててくまなく手を擦りましょう）
- ② うがい（水でOK！ぶくぶく・ガラガラ）
- ③ 呼吸器衛生・咳エチケット
（症状がある人がマスクを正しく着用する⇒鼻出し・あごマスクはダメ！）
- ④ 栄養バランス・生活リズムを整える
- ⑤ 持病のコントロール

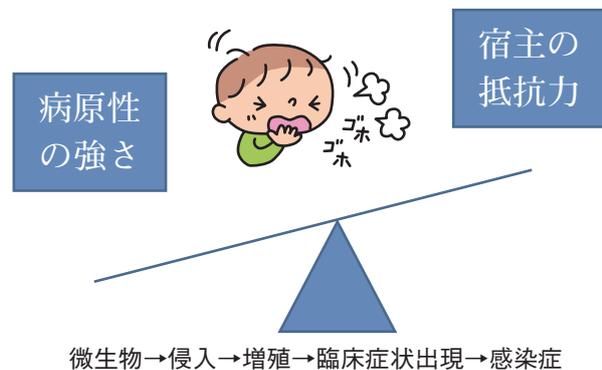
以上、日常的な衛生活動とプラスαになります。

今シーズンは冬将軍が猛威をふるい寒い日が続いています。こういった季節は夏同様、冬の寒さに体もバテ気味です。湯気の立った温かいものを摂取し体の内側から温めて下さい。感染予防の考え方は交通安全と似ています。ひとりで頑張ってもあまり効果がありません。ひとりでも多くの方が正しい感染対策を「束」にして実践することで、社会的・集団的な感染症に対する防護壁となります。今すぐみなさんも始めてください！

もし、感染症に罹ってしまったときは、「我慢や根性」より「すみやかな医療機関の受診」で早期回復を図って下さい。

感染症、恐れずしかし侮らず。春夏秋冬、予防は日常的な対策から。

感染症の発症



子育てで大切にしたいこと…① 乳児期の遊び

最近、新聞やテレビで、“子どもの虐待”、“育児放棄”など、子育てに関する暗い話題が多く聞かれるようになりました。実際、当院に来院されるお母さんも子育てに関する悩みを抱える方は多いという現状にあります。

そこで、医療保育専門家による、すぐにも実践できる“子育て”アドバイスを、今回から数回に渡ってご紹介していきたいと思います。育児への不安が少しでも減少し、子育てが楽しく感じられるようになれば幸いです。

お誕生から4ヶ月の時期は人生の基礎を築く上で極めて大事な時期です。「子どもの生活＝遊びである」と言われていますが、生後間もない赤ちゃんとお遊ぶということはなかなか難しいと思われるのではないのでしょうか。しかし、この時期の赤ちゃんの遊びをどう考え、どのように接するかで赤ちゃんの発達が大きく変わっていきます。赤ちゃんには生まれたときからすでに五感が備わっていることが分かっています。遊びを通して五感を刺激することで、赤ちゃんの発達を促す事が出来ます。

私は小児病棟で子ども達に保育を行っています。子どもの病状が安定してきた時期をみて、生後1ヶ月の赤ちゃんにも保育を行っています。まず赤ちゃんの目を見てお話をします。するとじーっと私の顔を見て、私の話を聞いているようなしぐさを見せます。

また、ベロベロパーを見せると同じように舌を出す赤ちゃんもいます。赤ちゃんの様子を見ながら話を続けると、声を出し、笑顔を見せ、手足を動かして嬉しそうにする姿が見られます。このようにじっくり時間をかけてあやしてあげると、非常に表情が豊かになってきます。次におもちゃを赤ちゃんの手に握らせ、声をかけながら「ひっぱりっこ」をして遊ぶと、手足をバタバタさせ全身で嬉しさを表現します。赤ちゃんの反応を見てお母さんは驚き「こんなに反応するのを初めて見ました。すごく嬉しそう！こんなに小さくても遊べるんですね！」とお母さん自身も嬉しそうです。

1ヶ月の赤ちゃんは何もできないように見えますが、赤ちゃんを信頼してなんでも話しかけるようにすることで、素晴らしい勢いで自ら発達していきますし、赤ちゃんの心も安定するため機嫌も良くなります。このように早い時期からの遊びを通じた関わりがうまくできると、お母さん自身も子どもの気持ちが読み取りやすくなり、育児がとても楽しくなっていきます。

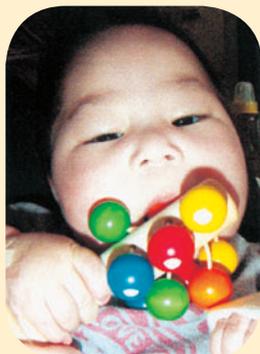


星総合病院 小児病棟
医療保育専門家・
おもちゃ子育てアドバイザー
圓谷厚子

おもちゃを使った遊びのようす



ブーマリングスでの遊び（1ヶ月児）



ドリオでの遊び（6ヶ月児）

星総合病院 婦人泌尿器科電話無料相談のご案内

尿もれ、性器脱^{*}、頻尿、排便困難などに悩む女性は多く、尿失禁は40歳以上の3人に1人が、性器脱は50歳以上の女性の半数が経験するといわれています。

しかし、生命に直接影響を及ぼす疾患ではないため、「診てもらうのがはずかしい」と考え、我慢されている方が多いのが現状です。

そこで、悩みを抱えた方のQOL（生活の質）向上の第一歩として、心理的不安を取り除くことを目指し、専門の職員が電話によるお悩み相談を行います。

相談は無料ですので、お気軽にお電話ください。

^{*}性器脱…子宮などの骨盤内の臓器が膣の方へと垂れ下がり、体外に脱出すること。

私たちがご相談に応じます

期 間	平成22年2月14日(月)～16日(水) 3日間
受付時間	午後3時～5時
電話番号	024-923-3711(代)

皮膚・排泄ケア認定看護師	永崎真利子
産婦人科病棟看護師	矢吹 恵子
第2混合病棟看護師	小林 周子
	渡辺 朋子
	佐藤 育恵

財団法人星総合病院
医療スタッフのための
どこでもメディカルセミナーのご案内

財団法人星総合病院では、地域の医療スタッフの皆様との連携を充実させることを目的に、星総合病院症例検討会や定例研修会、田村・三春地区医療職合同研修会（町立三春病院主催）等を開催しております。

これらの経験を踏まえ、様々な医療施設の皆様からの希望内容をもとに、当法人の職員が直接医療機関に出向き、勉強会を行う、「どこでもメディカルセミナー」を開催いたします。講師を務めるのは、薬剤師、看護師のほか、診療放射線技師、臨床検査技師などのコメディカル全般、社会福祉士、臨床心理士、医療保育専門士など多岐に渡ります。

医療従事者の皆様のご要望に沿った講演をさせていただくことにより、互いの現場における医療・看護等の質向上を目指します。

主な内容

- ・医療安全
- ・看護基礎編
（感染対策、急変時の対応、看護記録など）
- ・看護専門編
（褥瘡予防、疼痛評価、乳がん看護など）
- ・小児・母性
（子育て支援、プレパレーションなど）
- ・在宅ケア
- ・精神領域
（認知症、看護師の感情コントロールなど）
- ・糖尿病関連
- ・生理検査・検体検査
- ・心臓
- ・病理
- ・リハビリテーション
- ・事務関連
（人事考課、電子カルテ、保険請求業務の基本など）
- ・その他

◆ご利用の手引

○講演内容：76講座（平成23年1月現在）

「どこでもメディカルセミナー メニュー一覧表※」をご参照下さい。

（多少の内容変更も可能ですので、ご相談下さい。）

なお内容は定期的に更新します。

※ホームページ（<http://www.hoshipital.or.jp>）に掲載しています

○申込方法

所定の申請用紙（ホームページよりダウンロード可）に記入後、星総合病院地域連携室までFAXにて送信してください。申請書が届き次第、担当者よりご連絡させていただきます。

○セミナーの実施

担当者が出向いてセミナーを開催します。

○ご利用料金

	連携医	その他
30分1コース	2,000円	3,000円
60分1コース	3,000円	4,000円

※いずれも税込み

※資料代・講師交通費を含みます

○申し込み先

星総合病院 地域連携室

FAX：024-939-3699

○お問合わせ窓口

財団法人星総合病院 教育研修センター（担当：渡辺）

TEL：024-923-3711

e-mail：kensyu@hoshipital.or.jp

施設ニュース

パート①

星総合病院

郡山マンドリンクラブによる コンサート開催

12月18日

郡山マンドリンクラブ（代表：春山秀城様）によるコンサートを開催し、「テレビ時代劇メドレー」、「また君に恋してる」、「上を向いて歩こう」など、なじみの曲を披露していただきました。会場には、入院および外来患者さん、ご家族など約80名が集まりました。優しく繊細なマンドリンの音色に感動し、心温まる演奏に涙ぐむ方もいらっしゃいました。今後も、このようなコンサートを定期的に開催し、来院される方への癒しの提供に努めてまいります。



星ヶ丘病院

あさか開成高校音楽部 クリスマスアンサンブルコンサート開催

12月18日

あさか開成高校音楽部の1・2年生20名による、クリスマスコンサートを開催しました。サンタの帽子をかぶり、クリスマスの雰囲気を出しながら、「もろびとこぞりて」、「赤鼻のトナカイ」などを演奏していただきました。体を左右に揺らし、リズムをとりながら楽しく演奏する学生につられて、患者さんも曲に合わせて一緒に歌ったり、手拍子したり…。素敵な演奏をありがとうございました。



三春町立三春病院

三春小学校 クリスマスコンサート開催

12月21日

三春小学校合唱部・合奏部の生徒約60名が来院し、この日のために何度も練習を重ねたすばらしい演奏を聴かせてくれました。一生懸命演奏する姿に、会場に集まった患者さんやご家族、隣接する三春町敬老園の入所者など約80名の方々は、感激した様子でした。「コスモス」、「ふるさと」、「クリスマス協奏曲」などの演奏に合わせて一緒に歌を口ずさむ方もおり、心安らぐ時間となりました。



介護老人保健施設オリオン

クリスマス会開催

12月18日

利用者の皆さんによる美しいハンドベルの音色、そして「アンサンブルテブクロ」による温かみのあるオーボエの音が会場に響き渡り、オリオン全体が一足早いクリスマスの雰囲気に包まれました。ソリにのったサンタクロースとトナカイも登場し、全員に笑顔をプレゼント。また参加者には、料理教室で利用者さんが飾り付けしたクリスマスロールケーキが振る舞われ、おいしそうにほおばる姿が見られました。笑顔があふれる、賑やかなクリスマス会となりました。



クリスマスロールケーキが振る舞われ、おいしそうにほおばる姿が見られました。笑顔があふれる、賑やかなクリスマス会となりました。

養護老人ホーム三春町敬老園

クリスマス交流会開催

12月5日

みはるファミリーサポートの皆さんが来院し、クリスマス交流会が開催されました。クリスマスツリー飾りやクリスマスソングの演奏、バルーンアート、ケーキ作りなどが行われ、入園者は楽しいひと時を過ごしました。



施設ニュース

パート②

ポラリス保健看護学院 プロ野球選手による特別講演会開催(12月15日)

プロ野球選手の井口資仁選手(千葉ロッテマリーンズ)、吉本亮選手(東京ヤクルトスワローズ)をお招きし、「プロの心構え」をテーマにご講演いただきました。両選手の野球に対する考え方、学生とプロとの違い、チームプレーの中で大切にしていることなどについて、自らの体験を踏まえてお話してくださいました。

看護職を目指して日々研鑽を重ねる看護学生が、今後自らの進むべき姿、専門職としての在り方を考える機会となったようです。



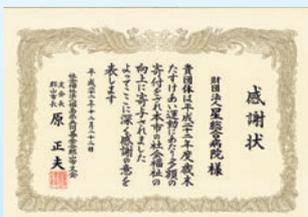
星総合病院・町立三春病院 年越し蕎麦振る舞いを実施(12月31日)

大みそかの夜を病院で過ごされる患者さんのご家族及び付き添いの方に、温かいお蕎麦で年越しを迎えていただきたいとの願いを込めて、毎年恒例の「第13回年越し蕎麦振る舞い」を行いました。職員が調理した作りたての温かいお蕎麦を提供し、ご好評いただきました。



平成22年度歳末たすけあい募金 感謝状をいただきました

「歳末たすけあい募金」の共同募金に際し、当財団全体で114,000円の募金が集まり、社会福祉法人福島県共同募金会郡山市支会より、感謝状をいただきました。



星総合病院 「多目的トイレ」を設置しました

1階外来トイレ(予診室隣)に多目的トイレ(男女兼用)を設置しました。

長年ご不便をおかけ致しておりましたが、車椅子の方をはじめ、身体に障害を持つ方にもご利用いただけるようになりました。



財団法人 **星総合病院**

HP <http://www.hoshipital.or.jp>

- **星総合病院**
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3711
- **星総合病院 在宅介護支援センター**
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3818
- **星ヶ丘病院**
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411
- **星ヶ丘訪問看護ステーション**
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-962-1711

- **居宅介護支援事業所星ヶ丘**
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6414
- **介護老人保健施設オリエント**
〒963-0211 福島県郡山市片平町字峯三天2番地
TEL 024-952-6413
- **三春町立三春病院**
〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50
TEL 0247-62-3131
- **養護老人ホーム三春町敬老園**
〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50番地1
TEL 0247-62-3618

- **ポラリス保健看護学院**
〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字金堀田4番地
TEL 024-922-9105
- **芳賀・小原田地域包括支援センター**
〒963-8813 福島県郡山市芳賀1-16-1
TEL 024-941-1121
- **星総合病院保育所**
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目2-14
TEL 024-923-5550
- **星ヶ丘保育園**
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号
TEL 024-951-0788

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
<http://www.hoshipital.or.jp>
発行／財団法人星総合病院
編集／「懸虹」編集委員会
発行日／平成23年1月25日
住所／〒963-8501
郡山市大町2丁目1-16

明けておめでとうございませう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

最近読んだ本に、記憶に関する興味深い話題が載っていました。大人になると、子どもに比べて、一年が短く感じられる理由について書かれたものです。

脳に入った情報は、「海馬」という記憶を司る器官によって、記憶される必要がある。人間はこの「記憶する」と判断した数が多いほど、のちに振り返った時に時間が長いと感じ、少ないと短く感じるそうです。

経験すること全てが新しく、「記憶」として蓄えられることが多かった子どもの頃と比べて、何をしてもあまり刺激を受けなくなってしまう大人は、一年は早く感じられるのだそうです。

一年を振り返った時、充実した一年だったと思えるよう、一日一日を、また一つひとつの出来事を大切に過ごしていきたいと改めて感じました。

広報担当 菅野

編集後記